



シュンデンタルタイムズ

7

2023

今月の特集
精密根管治療

一度削ったり抜いてしまったりした歯は、二度と元の状態には戻りません。

天然歯(ご自身の歯)は、生涯における健康維持の観点からできるだけ残すことが大切です。重度のむし歯になると抜歯となるケースが増えますが、それを避けるために行うのが根管(こんかん)治療です。複雑な形状をした細い根から汚染物を取り除き、洗浄・消毒・薬剤を詰めることで治癒を促します。

「シュンデンタルクリニック」では、マイクロスコーブを応用した**精密根管治療**を行っております。

歯の神経にむし歯の感染が進んでしまうと食事、飲み物の刺激がなくても歯がズキズキ痛みます。歯を噛み合わせるだけで痛むのもむし歯のサインです。歯ぐきが腫れたり、押すと痛みがある場合、根の先端に膿が溜まっている状態等も根管治療が必要となります。また、過去に行った根の治療で、折れてしまった器具の除去を行う場合も精密根管治療が必要になります。

過去にも根管治療についてレターを発行しております。詳しく知りたい方はQRコードを読み取りご覧ください。



2019.11月発行
No.010



2021.2月発行
No.025


異物除去の動画

シュンデンタルクリニック函館
@sdc2016



精密根管治療の流れ

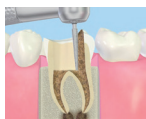
根管治療は精密さが要求されます。

それは汚染された歯質を残してしまうと、再発してしまう可能性が大幅に高まるからです。

**STEP
01**

汚染歯質の除去

むし歯に汚染された神経、血管、歯質を除去します。


**STEP
02**

根管内の長さの計測

根管内を洗浄したあと、根管内の深さを計測します。



STEP
03

消毒

細菌が残らないように根管を消毒します。



STEP
04

密閉

根管内にすき間ができないように薬剤を充填して密閉します。



STEP
05

土台作製

被せ物を装着するための土台を装着します。



STEP
06

被せ物装着



根管は複雑な形状をしているうえ、とても細く肉眼では細部まで捉えられません。

そこで当院では、肉眼の約20倍にまで拡大可能なマイクロスコーブを活用して患部の治療を行っています。治療部位をしっかりと確認することができる為、汚染部位の取り残しを防ぎ、歯質の削り過ぎも防ぐだけでなく治療時間の短縮にもつながるのもメリットとなります。

また、歯科用CTを活用した正確な診査診断を行っております。

根管治療を行う前に、歯科用CTを用いて三次元的に歯の形態を確認します。歯科用CTを活用することで詳細な情報が得られる為、正確な診査・診断ができ精密治療が可能になります。



肉眼

マイクロスコーブ



感染再発を減らすためラバーダムを使用



ラバーダム防湿とは、治療する部位だけを露出させることができるシートです。

治療部位に唾液が入ってしまうと、むし歯の原因菌が混入してしまい感染の再発につながってしまいます。ラバーダムを使用すれば根管治療の成功率を高められます。また使用する薬剤がお口の中に流れ込むのも防げます。

専門医師の紹介

根管治療は細かく難しい治療のため、根管治療専門医師との連携が重要になります。そのため、当院での治療が困難な根管治療のケースでは、根管治療を専門に行っている歯科医師への紹介を行っております。

シュンデンタルクリニック

〒041-0802 北海道函館市石川町 461-38 TEL 0138-47-3737

<http://shundc.jp/>